

第12回 縄文シテイサミット

自然を愛し 共に生き
必要なものを必要なだけ手にいれる
使える道具は、何度でも...何度でも...
最後まで大切に使い、丁寧に
土に返す...縄文人
彼らは、今の私たちをどう思うのでしょうか？

縄文人の「心」を知ろう

現代へ託されたメッセージは？

縄文シテイサミットが、7月3日、4日の2日間にわたり洞爺湖文化センターで開催されます。同サミットは、縄文文化の意味・深さ・歴史的意義を探索し、同時にまちづくりに活用するための方策を検討するために開催されます。

縄文都市連絡協議会に参加している市町の中から選ばれた地域で開催され、今年で12回目を迎えます。

昨年9月、洞爺湖町の縄文遺跡「入江・高砂貝塚」を含む、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」が世界文化遺産国内暫定リストに追加記載されたことや7月にG8北海道洞爺湖サミットの開催地となったことなどから、協議会への加盟と2009年の洞爺湖開催に向けて活動を展開。昨年(2008年)11月に宮城県東松島市で行われた総会で、洞爺湖町開催が承認されました。

縄文人は自分たちを取りまく

環境を見つめて自然との共生を果たしてきました。動物をかたどった製品や土偶、ストーンサークルに見られるようなモノユメントなどからは、彼らの自然に対する「感謝」と「畏敬」の念をうかがい知ることができます。

そして、そこからは現代に生きる私達も学ぶべきところがあるに違いありません。

7月3、4日の「縄文シテイサミットinとうや湖」では、1万年にわたって自然との共生を果たした縄文人の「心」をテーマに、現代へ託されたメッセージを考え、縄文文化の魅力や歴史的意義などに触れていきます。

